

こざわししおど 小沢獅子踊り

- ◇ 指定日 平成21年5月21日
- ◇ 所在地 小沢
- ◇ 保持団体 小沢獅子踊り保存会

和銅年間、^{さるまるだゆう}猿丸太夫はこの地に^{えんる}遠流され、^{みやもり}横山八幡宮の宮守となりましたが、「奥山に紅葉踏み分け鳴く鹿の 声聞く時ぞ 秋は悲しき」という和歌を詠み、罪を許されて京に帰っていきました。里人は太夫の徳をたたえ、獅子踊りが作られたといわれています。



また、源義経が黒森神社に^{さんろう}参籠し前途の平穏を祈り大般若経を書写したと伝えられています。義経一行のつれづれを小沢の獅子踊りが慰めたところ、義経は非常に喜び、踊りの所作や調べについて様々な助言をなしたので、一段と洗練され勇壮華麗なものとなって伝承されています。7月の大杉神社例祭、9月の横山八幡宮例祭で神輿に御供し、神輿が船に乗る時や神輿の休み場となる神社などで庭踊りを披露しています。

演目…前庭・女獅子狂い・後庭